

【レキオスソフトが開発 オリコンサルら協力 地震伝達システムが JICA 支援事業に】

地震伝達システムが JICA 支援事業に

レキオスソフトが開発
オリコンサルら協力

ソフトウェアメーカーのレキオスソフト（那覇市、柴崎淳代表取締役）が開発した地震伝達システムが、国際協力機構（JICA）の中小企業向けビジネス支援事業の対象に採択された。システム開発でオリエンタルコンサルタンツと NEC が技術協力した。今後は3社が連携し、地震の多いペルー国内で実証実験を行う方針だ。支援事業を通じて、レキオスソフトは同システムの普及拡大を目指す。

地震伝達システムの名称

は「緊急地震速報 EEW」。計測装置で地震波を捉え、7秒以内に気象庁へ伝達する技術として国内外に導入している。システムのさらなる普及を目指すレキオスソフトは、JICA が実施する中小企業の市場開拓を支援する補助事業に応募。採算性などが妥当と判断され6月に対象に採択された。

レキオスソフトはオリコンサル、NEC と共にペルー国内の沿岸地域5カ所で地震伝達システムの実証実験に着手する。2021年から2年間で有効性を確認し、途上国や地震多発国を中心にシステムの販路開拓を目指す考えだ。